

「西脇市のこどもの未来を想う会」との課題懇談会

文教民生常任委員会

と き 令和4年4月3日（日） 午後1時30分
と ころ 茜が丘複合施設 みらいえ 会議室①
出席者 議員8名 文教民生常任委員会 全員
保護者 18名 （地区別：芳田＝2名、重春＝3名、野村＝4名、
西脇＝5名、日野＝1名、比延＝3名）
※黒田庄＝欠席（意見書を提出）

■懇談内容■

1 G I G Aスクール構想・I C Tを活用した教育について

(1) 委員長あいさつ

G I G Aスクール構想・I C Tを活用した教育については、文教民生常任委員会の特定所管事務調査として取り上げ、1年をかけて取り組む意向を説明する。

(2) タブレットの活用について

- ・新型コロナによる休校や学級閉鎖時の対応について、学校間格差がある。また、同じ学校にあっても学年や担任によって対応が異なり、保護者としては不安である。（重春小学校、西脇小学校ではオンライン授業はなく、日野小学校では実施、芳田小学校でも実施されたが登校自粛要請の児童に対しては対応なしとの報告）
- ・何のためのタブレット配布なのか。
- ・重春小学校1年生に配布されているタブレット、起動に15分を要する。（タブレットに親しみがもてない。）

(3) タブレット利用上の問題点

- ・黒板の文字の映りが悪い。特にチョークの文字
- ・デジタル手書きの感度が悪く文字が書けない。タッチペンの使用を提案するが不許可（加東市では、P T Aから100均のタッチペンが配られている。マウスの使用についても対応されている。）
- ・タブレットの更新問題（更新年数、費用負担の問題等）
- ・前使用者のデータが残っていた（次に引き継ぐ場合、データの消去について、どの様に行われているのか。）
- ・タブレットの充電について。家でフル充電して登校するようにとの指導だが、学校の充電B O Xの利用状況はどうなのか。

(4) 姫路市立豊富小学校 視察研修の感想（令和3年4月21日）

視察研修の参加者より視察研修の感想を聞く。

「西脇市の取り組みがいかに遅れているか痛感した。豊富小学校では『タブレットで何ができるのか。タブレットを使ってより勉強する力を伸ばすのか。』を考えて取り組まれている。校長先生は、『教員のレベルは、できない教員に合わせるのではなく、できる教員に合わせます。』と述べられたとのこと。また、GIGAスクールでのタブレットの使用について、保護者向けにわかりやすい情報発信がなされている。」

□保護者意見総括□

西脇市は他の近隣市町に比べ、ICT教育については遅れていると感じていて、保護者は大変不安に思っている。教育委員会には、パソコン機材の改善や管理方法についての方針を明確にさせていただき、市内全学校教職員のICTリテラシーの向上を早急にしてほしい。

西脇市のICTを活用した教育の諸問題については、懇談会3日後の4月6日に文教民生常任委員会を開催し、教育委員会の見解を質しました。（資料1）

2 学習環境規模適正化に伴う学校統廃合について

(1) 芳田地区

- ・芳田小学校は、少人数で穏やかである。先生方の目が行き届いている。重春小学校と合併すると、多人数となる。特に低学年での学習環境の変化が心配である。
- ・学校統廃合は、過日、県立高校再編計画が発表された様に、西脇市に限る問題ではないと思う。将来的なことを見越すと2拠点案も「ありかな？」との考えもある。地域愛はわかるが、地域愛だけではうまくいかないことも理解できる。

(2) 日野地区

- ・比延小学校が残るのに、日野小学校はなぜ西脇小学校に統合されるのか？…との思いがある。

(3) 比延地区

- ・子どもの数を見ていると、比延小学校がなくなるのは致し方ないと思う。
- ・市街化調整区域で地元の人しか家が建てられない。比延小学校は、地元の人がかんばって住んでいる状態。親なきあと、子どもたちが市街化調整区域でどうやって生活していくのか不安である。

- ・他県から双葉小学校を選んでいる人にとっては、我々の学校統合問題以上の大きな問題となる。もっとその方々にも丁寧に寄り添ってもらいたい。

(4) その他

- ・小規模特認校としての双葉小学校の廃止をいち早く決定したことに納得できない。不登校児等の受け皿としての役割があるのではないか。選択肢として残すべきではないか（フリースクールとしての役割について提案あり）。
- ・統合で、不登校生徒の学習保障の場がどうなるのか、説明不足だと思われる。
- ・大人数で授業を受けさせたいという親、小規模で丁寧な指導を求める親、様々である。決してまとめることはできない。多様性の答えは、選択肢を増やすことにあると考える。予算の問題もあると思うが、大規模校、中規模校、小規模校の選択肢がほしい。
- ・加東市では、保護者に統廃合の情報が十分にいきわたっている。不登校児童等への対応も説明されている。保護者の不安解消に繋がっている。西脇市では、保護者への情報提供が不足しているのではないか。

3 ジェンダーフリー制服早期実現について

□課題についての提案説明□（想う会より）

昨年10月に予定されていた「こども会議」に「どうして中学校に行ったら女の子はスカートで、男の子は学ランと決まっているの？」との疑問から、『みんなが納得のできるデザインの制服を目指し考えたい』とテーマを準備していたが、コロナの影響で開催が中止された。中学校に入学した途端に、性別によって服装まで決まっているのか…。子どもたちの疑問に答えるため、服装に係る要望をまとめ4中学校PTA（連合会）から教育委員会に提案したが、PTAの役割にそぐわないとの理由で不調に終わり現在に至る。

(1) L G B T Q + に対する課題として

- ・いずれジェンダーフリー制服は実現されると思うが、それを待てない子どもが現にいる。今、悩んでいる子どもたちをなんとかしてあげたい。
- ・体操服ズボンに申請により許可となっている。プライベートな問題を誰かに打ち明けるだけでも大変な勇気がいる。むしろ打ち明けられない子どものほうが多い。申請したら体操服着用許可されるのではなく、誰もがその時の気候や気分体操服や制服を着用できるようにしてもらいたい。

- ・カミングアウトしなければならない社会が、よくないと思っている。
- ・西脇市は、SDGs推進都市「誰一人取り残さない」ようにしてもらいたい。

(2) その他制服に関して

- ・例えばスカートでは寒く、防寒のためジャージをはくことは認められていない。校則にある服装の範囲で、柔軟な対応を願いたい。

□委員より、制服の規定は各学校の采配となっている。現在の細かな問題点は、各学校PTAに問題提起してみてもどうかと提案

※ しばざくら幼稚園閉園に伴う転園に関する要望

しばざくら幼稚園の閉園に伴う転園に関する保護者への説明会が十分になされていない。転園先の希望について問合せがあったが、コロナの影響で選択先の園の見学もままならず、転園先を決めかねている。不安解消のための説明会の開催をお願いする。

□この件については、4月14日、正副委員長が幼保連携課長に確認したところ、保護者への説明会開催を検討しますとの回答を得ている。

(資料1)

4月6日、文教民生常任委員会を開催。議題は「西脇市のICTを活用した教育の現状について」でしたので、課題懇談会で出た意見に対する教育委員会の見解に当たる部分を記載します。詳しくは、当日の録画配信か委員会会議録をご覧ください。

■西脇市GIGAスクール構想実施計画について

- ・今年度は、2018年～2022年の5ヶ年計画の最終年にあたる。今年度、小中学校の体育館、特別教室にインターネット環境を整備する。令和5年度以降の計画を国の計画に基づき策定する予定である。

■オンライン授業の現状について

- ・授業スケジュールには余裕を持っているので、5日間程度の遅れであれば授業時間は確保される。
- ・3月7日時点では、学級・学年閉鎖をした5校のうち4校で、朝の会や終わりの会、課題の配布提出、授業、デジタルドリルなどを行い、学習を止めない取組をした。1校は、閉鎖が短期間であったため実施しなかった。
- ・全ての学校で、欠席した児童生徒がオンラインを活用した授業等を受けた。

注) オンラインを活用した授業等≠オンライン授業

全ての学校学級でオンライン授業をしたわけではない。

■オンライン授業実施の格差の原因

- ・一方通行的なオンライン授業（授業のオンライン配信）は、現在の機器でも可能
- ・対面授業とオンライン授業を組み合わせる「ハイブリッド型授業」には専用カメラと大型モニターが必要となるが、まだ整備はできていない。学力定着のためには双方向のオンライン授業が必要であると思うが現状ではハード面で難しい。
- ・先生の経験不足、スキル不足もある。コロナ禍もあり研修が十分に進んでいなかったが、情報交換会を開催し、好事例や課題等を情報共有したり、研修会を開催したりし、課題の解決に努めている。そもそもGIGAスクール構想はコロナ禍の前に設定されたものであり、オンライン授業が想定されたものではなかった。とはいえ、現在ではコロナ対応も求められているので、様々な研究をしながらになるが取り組んでいきたい。

■ 今後のオンライン活用について

- ・あくまで、対面授業が最も効果があり、今後求められる学力を付けるうえで、重要であると考えている。ただし、今後、インターネットを活用し、うまく付き合っていくことが求められている。コロナで一気にオンラインやデジタル活用が進んだが、そのような世の中で情報の波にのまれるのではなく、情報をうまく使える人材を育てていきたいと考えている。
- ・不登校などで学校とのつながりが少なくなっている児童生徒にとっては、まずはオンラインでつながったり、デジタルドリルを活用するほうが、効果的である場合がある。
- ・授業展開においても、リアルな対話より、オンラインでの集計を活用するほうが、効果的な場合がある。児童生徒の学力を付けていくためにもっとも効果的である方法を、オンラインなのかリアルなのか、考えながら、オンラインも積極的に使っていきたいと考えている。

■ G I G A スクール構想の現状や進捗についての情報共有

- ・広報にしわきでも教育委員会のページで、令和2年6月号、10月号、令和3年2月号、9月号でICTを活用した学習や授業等について発信しており、ホームページでは、「ICT機器を活用した『新しい学び』へ」というページを作成し、G I G A スクール構想の趣旨や学習コンテンツの紹介をしている。とはいえ、保護者の不安の声も届いているので情報発信を改善していきたい。
- ・今後はICTを活用した学習の授業参観を実施したり、保護者と共にICTリテラシーを学ぶ機会を提供したいと考えている。

■ ICTを活用した教育の方針

- ・新しい時代に求められる学力をつけるためには、協働的な学び、個別最適な学びの実現、主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善が必要と考えている。そのためには、ICTを効果的に活用することも必須であると考えている。また、情報活用能力についても、言語能力、問題発見・解決能力とともに、学習の基盤となる能力に位置付けられているので、ICT機器を活用しながら、情報教育に取り組んでいきたいと考えている。